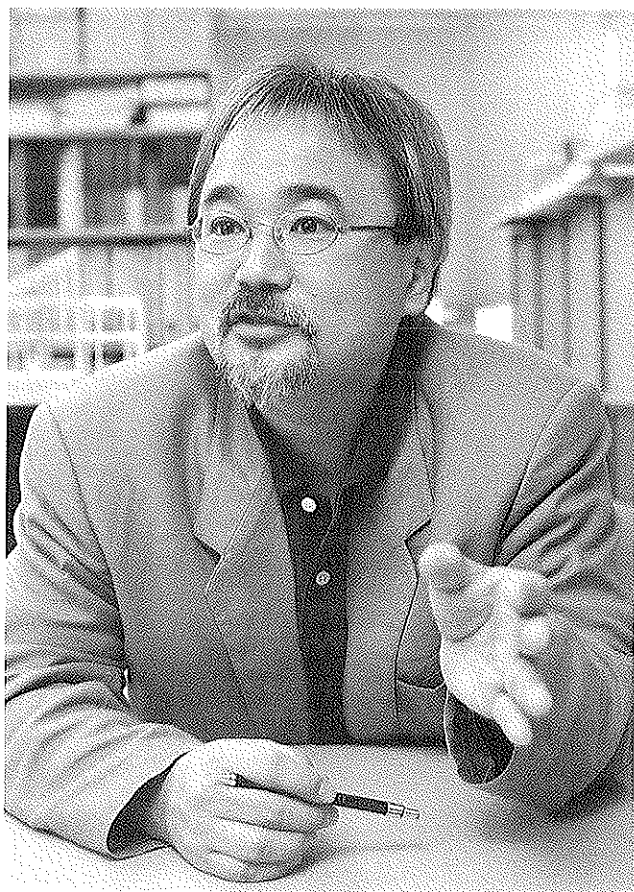


# 頼みたいのは こんな建築家

建築家として家づくりにかかわるだけでなく、専門学校  
の講師として、建築関連の本の著者として、幅広く活動  
している来馬輝順さん。古い民家での住体験が生きた建  
築ポリシーと、日本の住宅のこれからを伺いました。

取材・文/本誌編集部 撮影/澤崎信孝 デザイン/ドモン・マイنز



## 建築工房 匠屋 来馬輝順さん

くるば てるのが 1956年、福井県生まれ。福井大学工学部建築学科卒業。'86年  
現事務所設立。東京工科専門学校非常勤講師、町田ひろ子インテリアコーディネ  
ーターアカデミー講師。【Official Data】東京都目黒区中目黒2-7-11 宮岸ビル  
4F ☎03-3716-1743 <http://www.campus.ne.jp/~tktk>

——来馬さんは、専門学校の建築科  
やインテリアコーディネーター科の  
講師としても活躍ですが、インテ  
リアを学びたいという人は、最近  
ふえているんじゃないでしょうか？  
来馬 確かに関心をもつ人がふえて  
います。女性の生徒さんを例にとる  
と、これまではインテリアコーデ  
ィネーターをめざす人がほとんどで  
した。ところが最近では、「設計もした  
い」という人が意外と多い。衣食住  
の「衣」と「食」が一般化したのに  
対して、これまで「住」に関しては  
「あきらめ調」でした。それが、気  
持ちに余裕が出てきて、家具や雑貨  
といった身の回りのものに目がいく  
ようになったためか、住まいのこと  
もちゃんと考えたい、という人がふ  
えてきたように思います。

——設計には、どんな能力や素質が

必要とされるんでしょうか？

来馬 図面は案外、誰にでも描けま  
す。見よう見まねで、工夫しながら  
何とか描ける。差が出るのは、奥行  
きや高さ、ボリュームといった空間  
の把握力と表現力に尽きます。建築  
家でも弱い人がいますからね(笑)。  
実際に建物になったときの居心地は、  
空間を把握している人の設計のほう  
が断然上。店舗でも、面で見るとき  
れいだけど、空間だと急にげっそり  
するような店がいっぱいあります。

——来馬さんに家づくりを依頼する

## 家も、そこに住む人どうしも、 風通しのいいほうがいい。

——来馬さんの事務所は、同じフロ  
アを何人かの建築家さんと共同でお  
使いなんですね。

来馬 今ここには3つの設計事務所  
が入っていて、「住まいFab」と名  
づけて、HP(<http://www.sunai-fab.net>)も作りました。いろいろな  
人が、ここに来てくれるといいと思  
っているんです。僕が大切にしたい  
のは、建築家どうしの横のつながり。  
これまでが少なすぎたんです。昔は、  
大きなビルと違って規制もそれほど  
厳しくない住宅の設計は、若手のス  
テップアップのための仕事とか、息  
抜きの仕事という側面があった。で  
も、ここ数年で新たな法律や、世間  
の設計者に対する不満が出てきて、  
まじめに住宅に取り組む事務所の存

人は、どういうルートで見えるケー  
スが多いですか？

来馬 HPや雑誌を見て、という人  
や、建築家の紹介システムなどです。  
うちではまず、事務所に来てもらい、  
「住まい方メモ」に記入してもらっ  
ています。これは、家に対する夢と  
か、休日はどうなふうに過ごしてい  
るか、など、その人の人間像を知る  
ことが目的の、非常にルーズな質問  
用紙。さらに予算や最小限必要な部  
屋数などを聞き、1カ月、時間をも  
らって最初のプランを出します。

在が大切になっています。きちんと  
運営していくには、建築家どうしの  
ネットワークや情報交換が不可欠。  
最新設備のこと、法律のこと、クラ  
イアントとの接し方など、情報をた  
くさん集めないと、今後はやってい  
けないと思います。

——プランニングのうえで、来馬さ  
んが大切にしていることは？  
来馬 クライアントの「納得」がい  
ちばん大事だと思っています。建築  
のプロフェッショナルとは何かと考  
えると、かっこいいデザインとかは、  
ある意味当たり前で、クライアント  
の条件を、いかにいい形にしてい  
くか、が大切だと思います。  
具体的なプランで大切にしている  
のは、「開放感」ですね。オープン

「家が基本です。僕はいろいろがあつて、仕切りの壁がほとんどないような古い民家で育ったので、閉鎖的なのはダメなんです。こまかく仕切られた家は息苦しくなってしまうので、廊下と部屋の間窓をあげたり、ついついやちやいませね(笑)。吹き抜けも、上下階のコミュニケーションの道具としてとり入れていきます。家も、そこに住む人どうしも、風通しのいいほうがいい。子供部屋も、しっかりした個室は必要ないと思っています。」

「クライアント側にぜひお願いしたいということがありますか？」

## 「畳と和風」ではなく、あくまでデザインとしてとり入れたたい。

「仕事が楽しくできるのは、どんなクライアントでしょう？」

来馬 設計にはいくつかパターンがあつて、それをクライアントの要求に合わせてはめるんですが、そのパターンが崩れるような要求をする人がおもしろい。「わがままを言つて悪い」と思うようですが、わがままと住みたい家のことを熱心に語ることは、まったく違いますから。」

「最後に、今後、日本の住宅はどうなっていくと思われませんか？」

来馬 これまでは、洋風とか和風とか、まずスタイルありきだった。でも最近では、スタイルにとらわれずに、「こんなふうに住みたい」と、

来馬 「家族が集える広いLDを」という希望は、本人はオリジナリティがあると思つていますが(笑)、実は非常に常識的なこと。そういう大きな話より、「トイレで本を読みたい」とか、「ふだん夫婦は別々に寝ている」とか、瑣末な部分にオリジナリティや家族像が見えてくるんです。だから、「食器洗い機をつけたい」「必要ない」ではなく、「毎晩帰りが遅くて、疲れきって食器洗いができない」と、毎日の行動や生活の仕方を話してくれるとありがたい。物やプランを引き合いに話しても、意外と伝わらないものなんです。

みんなが言い始めてきたように思います。それがなじんでいけば、本当の意味で今の日本の暮らしに即した家ができるんじゃないかと。

盆栽を楽しんでいるおじいさんに反発して、若い子供や孫たちが隣でガーデニングをしていたとしても、「緑を楽しむ」という観点で見ればどちらも一緒ですよ。盆栽にトリスを合わせてもいいじゃないですか。それがこなれていけば、きっといいデザインになる。僕は、洋風か和風かなんてことは、ほとんど考えないです。障子や畳はどこに使つた方がいい。それをデザインとして昇華できればと思つています。

## 来馬さんが手がけた家

東京都 U邸



玄関は共通で、1階にご両親、2階にUさん親子が暮らす二世帯住宅。南側にささぎも開けのがないことから、明るく開放的な住まいになりました。

本人十子供一人十両親。実家の二世帯住宅への建てかえに際し、当初はハウスメーカーに相談したUさん。プランが行き詰まり、以前通っていた学校の恩師の来馬さんに相談。なにげなく描いてくれたラフスケッチをご両親に好評で、来馬さんに依頼することに。仕切りが少ない「ラフに暮らせる家」が希望でした。DATA：木造2階建て(軸組み工法) 敷地面積230.51㎡(69.7坪) 延べ床面積174.96㎡(52.9坪) 本体工事費約3340万円(坪単価約63万円)



Uさん世帯のキッチン。「せっかく2つあるのだから」と、キッチンは、上下階でまったく異なるレイアウトに。サイドが本棚になったアイランドがユニークです。(右) 親世帯のリビング。吹き抜けを設けたので、採光も十分。2階とのつながりも感じられます。

### Uさんからひと言

最初に頼んだハウスメーカーとうまくいかず、引くに引けない状況に陥っていたとき、来馬さんの「振り出しに戻ろうよ」という言葉のおかげで、とても楽になりました。父は古いタイプの人なので、家づくりを建築家に頼むことに反対されると思っていたのですが、来馬さんのおおらかな人柄とシンプルなプランを、すぐに気に入ってしまったんですよ。



親世帯のキッチンはセミオープンに。左の壁には、隣家が迫っていることから、スリット出窓を採用しています。

埼玉県 K邸



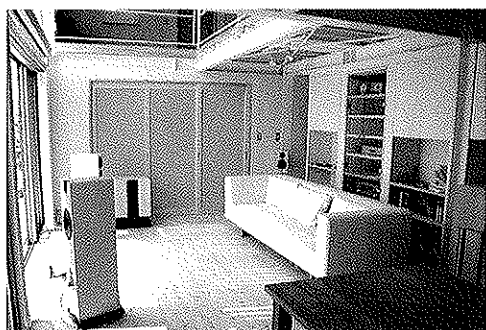
(右) ガルバリウム鋼板など、メンテナンス性のすぐれた素材を使ったシャープな印象の外観。趣味のシーカヤックの手入れができる広いデッキも設置してもらいました。(左) Kさんの住居スペースは、吹き抜けでつながり感を。

本人十両親。独立型の二世帯住宅で、今後、家族がふえたり、ご両親の面倒を見ることになった場合のことを考慮した住まいを希望。イメージに近い家を手がけている来馬さんを雑誌で知ってHPにアクセスしたのち、シンプルなデザインや、メールでコミュニケーションをとって設計した実績があることに魅力を感じ、依頼を決めました。

DATA：鉄骨造3階建て 敷地面積252.6㎡(76.4坪) 延べ床面積210㎡(63.5坪) 本体工事費約4500万円(坪単価約71万円)



ドアや仕切りの壁を極力なくしたオープンな間取り。ヒノキの床と鉄骨との相性も絶妙です。



Kさんが特に希望した、ホームシアターも設置されたリビング。機器類の収納と、素材感を生かしたシンプルな内装も、最初に伝えた希望でした。

### Kさんからひと言

いきなり電話をするのは抵抗があったので、HPで過去の施工例や設計に対する考えを拝見してから連絡を取りました。外階段の設置や防音対策など、1階の両親と適度に距離を保ちながら暮らせるように考えられた住まいで、とても気に入っています。設計途中、疑問点などにも納得がいくまで説明してもらえたので、安心しておまかせすることができました。